

サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比横ばいの11.9、前回調査予想値(2.4)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で14.3ポイント低下の16.7、売上数量が9.5ポイント低下の14.3、利益では4.8ポイント上昇の16.7と総体では変化無かったものの、売上・数量はやや減少し、利益は増加となった。

宿泊業ではねぶた祭り等のイベントにより観光客増加により好調に推移した。

分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

各イベントがフルスペックでの開催の影響は大きく、前期に引き続き好調に推移。

ねぶた祭り等で観光客が増加し、旅館・ホテル業は宿泊が増加。ホテルでの宴会等も増加し、好調に推移した。

旅行業においても、団体・個人とも安定した集客があり好調に推移した。

自動車関連は車検・修理は堅調に推移したが、車輌の高性能化に伴い、技術の習得や人材不足が懸念されている。

来期の見通し

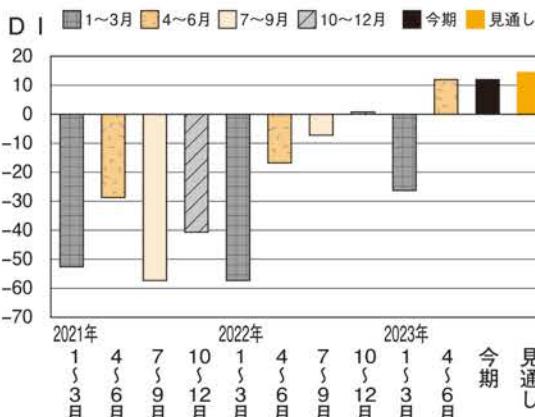
～業況判断DI値 横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比2.4ポイント上昇の14.3の見通しである。項目別では、売上・受注で横ばいの16.7、売上数量も横ばいの14.3、利益では4.8ポイント低下の11.9と総体では横ばいの見通しとなった。

観光による団体・個人の集客が期待される。人流がコロナ禍前に戻りつつある事から、他業種でも回復基調を見込んでいる。

業況判断DI値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況



～業況判断DI値 悪化となる～

今期の業況判断DI値は、前回調査比20.0ポイント低下の▲10.0と悪化し、前回調査予想値(30.0)を大幅に下回る結果となった。項目別では、売上・受注で20.0ポイント低下の0.0、売上数量が30.0ポイント低下の0.0、利益でも40.0ポイント低下の▲30.0と項目別では悪化となつた。

8月中旬までは好調であったが、以後低調に推移。燃料価格高騰が大きく影響し、収益の悪化を招いている。

分野別の状況

～総合的業況は悪化傾向～

旅客運送業は、各イベントや観光事業の好調から、売上確保できた。

貨物運送業は、りんごの運送が一段落することから売上高は減少。青果物については例年並みを確保。

一般区域貨物では、工事現場への資材搬入の受注減少から業況は悪化した。

各企業とも燃料価格高騰が利益を圧迫していることから、経費削減や効率化に向けた努力をしている。

来期の見通し

～業況判断DI値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比40.0ポイント上昇の30.0と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント上昇の30.0、売上数量が20.0ポイント上昇の20.0、利益では30.0ポイント上昇の0.0となつた。

りんごの運送が本格化するため売上は見込めるが、燃料費高騰は続く見込みであるため、各企業とも経費削減や効率化を主に利益確保に取組んでいる。

業況判断DI値の推移

